



經典餘師

書經

一

11
2047
18



門 2047
冊 18

讚岐百年先生述

經典
餘師書經之部 六
卷

浪華書林

稱觥堂
南華堂
積玉圃
文金堂

合刻

餘師題辭

經籍傳于天朝。千有

五百年于今矣。歷世之

久。治亂之際。雖有道之

污隆。學之興廢。其所漸

經曲餘師
書經卷之序

進被及。遂至海隅養生。
臧獲兒女。口唱仁義忠
孝之名。鏗然服器殊名。
言語不通。是以續書數
年。於且賴師之口說。終

織其大義。而其間敏捷
英資。精覈洽聞。拔萃者
亦僅之有焉。然則如此
其難乎。曰否。夫天地之
間。无有无君臣父子之

鄉既有父。臣父子。斯有
仁義。忠孝之道。乃即聖
經所載之物。是也。後其
書。而知其義。何難之有。
蓋知之。易。唯其行之

之難。而待賦文章。裁作
之車。固不與焉。余故曰。
雖巧於詩。絨。无害為小
人。雖拙於文章。无害為
君子。豈不然乎。余嘗以

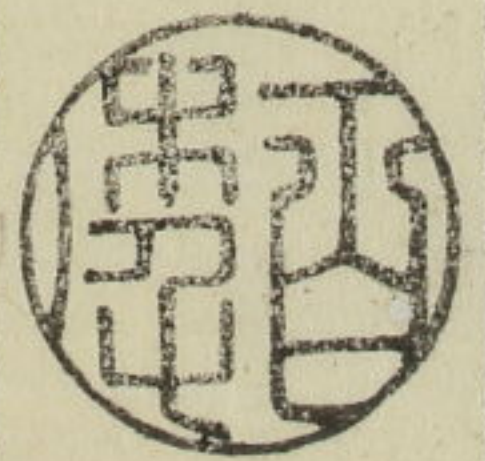
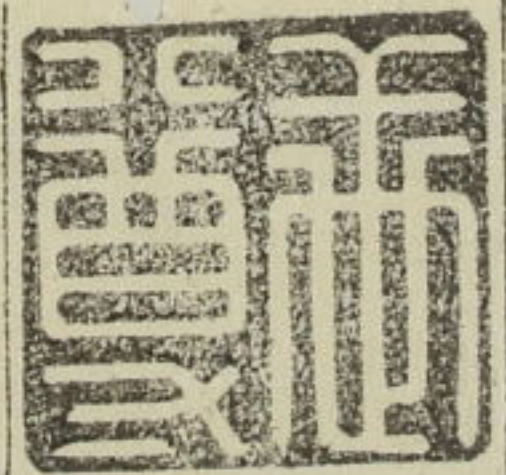
國字解數經。今年尚書

刻成矣。由題斯言于卷

端

戊午之春

玉澤舍主人撰



尚書

虞書

堯典

曰若稽古の帝堯
と稽古に曰く
放勳欽明文思
安安允恭克讓す

四表に光被し上
下于格る克俊德
と明らけりて以て
九旗と親しむ

尚書

尚と上と字の義おふと上代の帝より
の更と書まゝにふふの義ふり

虞書

上代の初らみふの各を堯帝より大
聖人ありその作法と第二代虞の代に記す書之

堯典

父帝の初代堯帝たり天下を治る
典とて示す

曰若稽古帝堯曰放勳欽明文思安

安允恭克讓

放勳の事と明らけりて政を文に
思慮ふくくし事安々に高きとひ

光

被四表格于上下克明俊德以親九

旗

經典、餘帛

書經卷之序

九旗既に睦まじく百姓と平章に百姓昭明にして萬邦と協和し黎民於變遷時雍ぐ

乃ち義和に命じて欽んで昊天と曆象を敬んで人に時を授くる

九旗といふ吾の父の母の妻の父の母のおおれぬ兄弟いふおのほいふおのほいふおのほいふおのほいふ

九旗既睦平章百姓百姓昭明協和

萬邦黎民於變遷時雍 九旗睦まじく百姓昭明協和

乃命義和欽若昊天曆象日月星辰 敬授人時 此より以下國家を治むるは能徳の

乃義と示して義氏和氏は子と四人の賢者なりて天文に通じて昊天の象をかんじ日月星辰の辰と曆を四季のめぐりに君が農業の時節をお授けたまはる徳を君の農業はこころをなす官人となり

敬授人時 此より以下國家を治むるは能徳の

乃義と示して義氏和氏は子と四人の賢者なりて天文に通じて昊天の象をかんじ日月星辰の辰と曆を四季のめぐりに君が農業の時節をお授けたまはる徳を君の農業はこころをなす官人となり

分て義仲と命

嶠夷に宅し且賜

谷と日あり寅

出ると日寅東作

と平秩す日の中

星の鳥を以て

仲春と殷を厥民

ら折る鳥獸を孳

尾す

申て義叔と命

て南交に宅し且

南訛と平秩と敬

致して日永

星を火あり以て仲

分命義仲宅嶠夷日賜谷寅寅出日

平秩東作日中星鳥以殷仲春厥民

折鳥獸孳尾

申命義叔宅南交平秩南訛敬致日

永星火以正仲夏厥民因鳥獸希草

初日の出るをうけと寅て東作なりつけは

秩と順ぐと平一かんじつと春の日乃中と知

あら朱鳥北星くは南にめぐると仲春の中

りときよとひる五十刻づの引分なるは殷と

鳥獸つとを子ををるは故に尾を孳ゆるとあり

申命義叔宅南交平秩南訛敬致日

永星火以正仲夏厥民因鳥獸希草

夏と正と厥民と
因て鳥獸と希
草と

分て和仲に命
西宅一昧谷と

曰寅んど納日と
饒る西成と平秩す

宵の中一星の虚ふ
里以て仲秋と殷す

厥民と夷うに鳥
獸の毛毳と

申て和叔に命
朔方に宅一幽

都と曰朔易と平

第二義叔に命一夏の官一申一南の国乃
交り宅一民と訛云月お一をかど一その
功と致と山時と仲夏の中一いつ日永と六十
刻余たり一南方に火星いつく鳥獸と毛毳

○分命和仲宅西曰昧谷

寅饒納日平秩西成宵中星虚以殷

仲秋厥民夷鳥獸毛毳

谷の土地に一つ一宅ふり納日の命をある
仲秋の時節をたぐ一五穀の西成と一秩をうんぐ

申命和叔

宅朔方曰幽都平在朔易日短星昴

在と日短と星

昴あり以て仲冬

を正す厥民と隩

鳥獸の毳毛と

帝の曰く咨汝義

暨ひ和基三百有六

旬有六日閏月と以

帝曰疇咨時若

帝曰疇咨時若

以正仲冬厥民隩鳥獸毳毛

帝曰咨汝義暨和基三百有六旬有

六日以閏月定四時成歲允釐百工

庶績咸熙

帝曰疇咨時若

時登庸放齊曰胤子朱啓明帝曰吁

庶績咸熙

帝曰疇咨時若

帝曰疇咨時若

帝曰疇咨時若

啓明ふ聖帝の曰く
吁咎訟あり可なり
らん乎

帝の曰く疇咨予
采に若らん驩兜
か曰く都共工方
鳩て功と僂と帝
の曰く吁静
に言庸るふ違象
ら恭しく天は滔る

帝の曰く咨四岳
湯湯る洪水方に

咎訟可乎

堯帝のまうりの疇人々當時の夏は違
せし徳はるゆのを咨たつひく登庸
んやとあり放奔とくふ臣下とくつふ亂子の
丹朱とくと知啓る徳明より帝のあつる丹朱はら

帝曰疇次君予采驩

兜曰都共工方鳩僂功帝曰吁静言

庸違象恭滔天

堯又のあふそれ予ふ采
とたすけてらんやと驩兜と
のこふ臣下とくつふ曰く共工をせんぐ功ありと彼
らとくつふ鳩かざるそさの世は僂りくたのそり帝の
あつる彼はる象をくつる恭とつる言はるる静りそ
と常に天にある人を滔る言はるる静りそ
人々ありと都とんかむことばあつる

帝曰咨四岳湯湯洪水方割蕩蕩懷

山襄陵浩浩滔天下民其咨有能俾

又僉曰於鯀哉帝曰吁咎哉方命圮

族岳曰异哉諶可乃已帝曰往欽哉

九載績用弗成

割す蕩蕩とて
山を懐と陵は襄
る浩浩とて天
滔る下民其咨
く能る有は又
又僉ん僉曰く於
鯀なる哉帝の曰
く吁咎哉方命
に方は旗を圮る
岳の曰く异哉可
と諶して乃ち已
ん帝の曰く往欽
まん哉九載績用
成弗

今みくど四岳の人々のあふそ
ら洪水はいづる湯々しく土地とへど割て山を懐
たりと波蕩々いづるも浩浩と陵丘を襄
おろるるに滔るるをたそけ村里家居もたふりて
民の咨のるるを能とくあひひるのあふべしや
いふあつる有るを僉くこふ君命に方一旗家内の心入
帝きつめて鯀の人のいづる君命に方一旗家内の心入
をとりつたがうの四岳のあつる然らば此は異
をよしや又と可否と諶して否くは己なるるの帝鯀
のあふそまの往るは又べし欽とくおろる
まはさ哉とこれり由る九載水を又しは績

帝の曰く咨四岳

朕位に在ると七十

帝曰咨四岳朕在位七十

載汝能命と庸

載汝能庸命異朕位岳曰否德忝帝

朕位を異ん岳

位七十載その間より四岳の命と庸を

曰く否徳あり帝

位と忝しめん

曰く明と明と

断奉すのり ○曰明明揚側陋師錫帝

側陋と揚と師帝

曰有鰥在下曰虞舜帝曰兪予聞如

錫て曰く鰥右下

何岳曰瞽子父頑母嚚象傲克諧以

乃曰兪予予も聞

孝蒸蒸又丕格姦

至如何岳の曰瞽

側陋より賢人をもつて明らふ求む

子父の頑なる母の

をいし象を傲る

克諧るに孝と以て

人あらず父を頑瞽の母を嚚一人の弟あり

て姦に格不

の問と諧いささか善心は蒸々て心の蒸々

帝の曰く我其誠

○帝曰我其誠哉女子時

て厥二女を刑

觀厥刑于二女教釐降二女于嬀汭嬪

觀二女を嬀汭于

于虞帝曰欽哉

釐降して虞于嬪

刑たり二女乃皇女有たるそのみらるるを降し舜の

帝の曰く欽

舜典 第二代舜帝は法と考ふこと

曰若に古の帝舜

曰若瞽古帝舜曰重華協于帝濟哲

と誓ふ古に曰重華

五

帝于協濟哲文明
温恭允塞玄德升
聞予乃乃命
以位以與慎
五典克從

百揆に納むるを百
揆時に叙す四門
于賓と四門穆穆

大麓于納むるを
烈風雷雨と迷
弗

帝の曰く格と汝は
舜事と詢言を
考ふ乃ち此言績
と可と底す三載
汝は帝位に渉れ
徳于讓て嗣弗

文明温恭允塞玄德升聞乃命以位
慎徽五典五典克從

帝の徳れりたりて華と重めりて義ありて
濟く徳乃明文く一々々の温う恭とぬく仁心允
に塞くその身の身いけり歷山乃ふりて鳩淵の川の
とより居りし時より御徳乃玄より其の聞へ外より
命トて堯帝天子乃位をゆつとんと
は五の典を徹し慎てれり施す
五乃典と君臣父子夫婦兄弟長者幼年少
作法とるへ乃道ありて天下の人々克この五
典乃らに志す

○納于百揆百揆時叙賓于四門
四門穆穆納于大麓列風雷雨弗迷

舜帝と百揆乃中に納れりて天下
乃政務をつとむるを百の揆いとて行ふ
東方と西方と南方と北方の門より
東国と西国と南北と諸侯と天子と四方の門より
入来りて天子を敬す又雨風烈
しく鳴雷きりて大麓の四方の門より
納て樹木ありて大麓の四方の門より
迷ふること大麓の四方の門より
世に幾乃政を聞まけりて知行ありて國家を治る
鳴の辭く ○帝曰格汝舜詢事考言
乃言底可績三載汝陟帝位舜讓于
徳弗嗣

正月初上日終と文祖
于受璿璣玉衡と
在うして以て七
政を齊肆上帝
于類一六宗于
禋山川于望
羣神に徧くと

五瑞と輯く月と
既望乃つら日に
四岳羣牧と觀

あまのついでに舜帝あつて詳しきついでに他も徳に
人への譲り多きを位を嗣とせしむるもまたさし
る

○正月初上日受終于文祖在璿璣玉

衡以齊七政肆類于上帝禋于六宗

望于山川徧于羣神

大聖人文徳の先祖あつての義なり舜帝の先帝は
通つての璿璣玉衡とて日月と水火木金土の五
星と七ツの政事をかんとし器物と以て一年四

季乃政を齊のより肆する天の上帝と類する春
夏秋冬と寒暑との以上六の宗と禋望するは初

徧く望はく山川の羣神を

○輯五瑞既月乃

日觀四岳羣牧班瑞于羣后

瑞と群后于班

歳の二月に東
巡守して岱宗于

至望秩と肆東

后を觀一時月と

協の日と正律

度量衡を同と

一五禮五玉三帛

二生一死の贄を修

め五器と如ふと卒

く乃つて復ふ

等と州伯を一等と子男乃二等とすべて天下乃
大名五等なり天子との五の瑞圭は御朱印と輯
禮式ありの瑞圭を群乃后に班をなすあり

○歳二月東巡守至于岱宗望秩

于山川肆觀東后協時月正日同律

度量衡修五禮五玉三帛二生一死

贄如五器卒乃復

天子天下と巡守なり

四方の諸

族伯その方角におつて朝觀乃祀ありありい
山川乃神祭と何れ中の月をめぐらゆるとつて
春の二月天子東国とめぐり代宗の山に柴と
つた次は川の祭は山川いづれも望せり祀をな
すは望秩とて秩とて順ぐの次序なり
時を領歷のいさかかへり上より下へ

五月南に巡守して南岳于至る岱の禮乃如八月西に巡守して西岳于至る初乃如

五月南に巡守して南岳于至る岱の禮乃如八月西に巡守して西岳于至る初乃如
○五月南巡守至于南岳如岱禮八月西巡守至于西岳如初十有二月朔巡守至于北岳

十有二月朔巡守至于北岳于至る西の禮の如歸て藝祖于格特を用ゆ

五載一たび巡守して羣后四朝以敷奏以言明試以功車服庸一十有二州と肇十有二山と封

岳如西禮歸格于藝祖用特五月南方

○五載一巡守羣后五載一たび巡守して羣后四朝以敷奏以言明試以功車服庸一十有二州と肇十有二山と封

四朝敷奏以言明試以功車服以庸

肇十有二州封十有二山濬川右の

五載一たび巡守して羣后四朝以敷奏以言明試以功車服以庸

川と濟へ

象以典刑と以て
流五刑と宥め
鞭官刑と作
教刑と作金
贖刑と作と昔
災肆赦一怙終
賊刑と欽
哉欽と欽惟刑
之恤へん哉

乃格式とくぐりて... 州はちぐり肇十二の大山乃神明とす... 水ととおさちて河川を濟く
○象以典刑流

宥五刑鞭作官刑扑作教刑金作贖

刑罰災肆赦怙終賊刑欽哉欽哉惟

刑之恤哉 聖人の道とつる... 道象に多し春の草木芽とい

どくたう秋の金の金氣にけり万物... 仁を

悪人を刑し... 殺伐とてけり時く... 象

善人を傷害... 己の心... 除た

まて刑べき罪... 此と宥ん... 流

まて刑... 外官人... 鞭

まて刑... 外官人... 鞭

○流共工于幽洲放驩兜于崇

山竄三苗于三危殛鯀于羽山四罪

而天下咸服 天下を治め

乃人民... 見く廣大... 御徳

とを崇山へ追放... 三苗と三危

○二十有八載帝乃殂落百

姓如喪考妣三載四海遏密八音

二十有八載帝乃
殂落百姓
考妣喪事

共工と幽州于流
驩兜と崇山于
放三苗と三危于
竄鯀を羽山于
殛と四罪而天下
咸く服と

如三載四海言
と歌密と

月正元日舜文祖
于格四岳于詢て

四門と闢と四目
と明とたし四聰と

達し十有二牧と
咨て曰く食うる哉

惟時遠と柔と
通と能と徳と惇

元を允し而任
人と難む蠻夷

てしてさくさくして即ち其の政変をとりしこと
七十年より一舜帝とてさくさくしてより二十
八載に及ぶ祖落しより甲百十四あり又十六
十七とて百百姓と考妣を巻ちひし
ふがとてかろし三載とて四海
の八音のさくさくと歌密と
○月正元日
舜格于文祖詢于四岳闢四門明四
目達四聰咨十有二牧曰食哉惟時
柔遠能通惇徳允元而難任人蠻夷
率服
十二牧乃人々と詢咨をせり天子乃
春すてりおそりさくさく四方より天子乃
と上り聰し達せり四方の門を初る天子の政変
やうの民とやう第一食ふる農作乃時と

舜の曰く四岳と
咨能庸と奮て

帝の載と熙む
有る百揆と宅て

采を亮し
疇と恵し使ん

僉曰伯禹司空と
作帝の曰く兪咨

禹汝水土を平け
惟時懋めん哉禹

拜稽首首し稷契
と臯陶暨に譲る

帝之載使宅百揆亮采恵疇
帝曰兪咨禹汝平水土惟時懋哉禹
拜稽首讓于稷契暨臯陶帝曰兪汝
往哉

帝曰俞汝往哉

帝曰棄黎民饑阻汝後

稷時百穀播

帝曰契百姓親不五品遜汝司徒作敬

帝曰皋陶蠻夷夏之猾寇賊姦宄汝士作五

刑服有五服三就五流宅有五室三居惟明克允

帝曰疇予工に若ん僉曰垂る哉帝曰俞咨垂汝共工も垂拜誓首て及斯暨伯譲予帝曰俞往哉汝諧け

て禹と多し一は懋を一とたりたれを禹も一旦稷と契と皋陶乃三賢人（ゆり）たれもつひり禹（さ）なり

命せしむる ○帝曰棄黎民阻饑汝後

稷播時百穀 棄の周の先祖后稷の名ありそり

帝曰契百姓 帝曰契百姓

不親五品不遜汝作司徒敬敷五教

在寬 契も賢人かりそりどのの親（つひ）の世の（つひ）

帝曰皋陶蠻夷夏之猾寇賊姦宄汝士作五

刑服有服五服三就五流有宅五室三居惟明克允

就五流有宅五室三居惟明克允

皋陶にのりんと蠻夷のくうと猾（つひ）りそり夏に冠

一等にゆゑの地は次を九州の外に後（つひ）の王畿のそ

帝曰

疇若予工僉曰垂哉帝曰俞咨垂汝

共工垂拜誓首譲于及斯暨伯與帝

曰俞往哉汝諧

垂も及斯伯との三人をたれりそり（つひ）の命（つひ）

帝の曰く疇予上下草木鳥獸若んん
 會曰益あゝ哉帝の
 曰俞咨益汝朕が虞
 と作益拜誓首して
 朱虎熊罷于讓帝
 の曰俞往哉汝諧よ
 帝の曰く四岳の咨能
 朕が三禮と典と有
 んや會曰伯夷帝の
 曰俞咨伯汝秩宗と
 作夙夜惟寅と直
 哉惟清伯拜稽
 首して夔龍于讓
 帝の曰く俞往欽

帝曰疇若予上下草木鳥獸會曰益
 哉帝曰俞咨益汝作朕虞益拜誓首
 讓于朱虎熊罷帝曰俞往哉汝諧
 上下の草木鳥獸をさしづむるを
 益も朱虎熊罷の四
 帝曰咨四岳有能
 典朕三禮會曰伯夷帝曰俞咨伯汝
 作秩宗夙夜惟寅直哉惟清伯拜稽
 首讓于夔龍帝曰俞往欽哉
 鬼神と祭る三禮ありたしひ
 のやくる正直清浄の道はめつ
 大神

帝の曰く夔汝
 命ト樂と典と
 直に而温寛に而
 栗剛に而虐する
 無を簡に而傲
 無を詩に志と言
 歌の言と永す声
 永に依律ハ声と和
 八音克諧いで
 倫と相棄と無れ
 神人以て和す夔
 曰放予石と擊

帝曰夔命汝典樂教曹子直而温
 寛而栗剛而無虐簡而無傲詩言志
 歌永言聲依永律和聲八音克諧無
 相棄倫神人以和夔曰放予擊石拊
 石百獸率舞
 夔とつゝ賢人
 音樂のおし
 命ト曹子と長子の志
 樂の徳をさしづむるを
 栗あつかふん剛を
 言葉簡にさしづむるを
 傲をさしづむるを
 神人との間に感應する上下男女のまじり

石と拊が百獸率舞

帝の曰く龍朕謬

説行と殄朕師と

震驚すまこと聖

汝も命も納言と

作夙夜朕が命と

出納して惟允なれ

帝の曰く咨汝二

十有二人欽まん

哉惟時天功と亮

三載績と考へ三

考幽明と黜陟

て庶績咸熙あり

三苗と分北す

舜生まで三十徵

庸せしれ三十位

に在五十載以て

陟方して乃ち

死す

正しくむらまじくちかちか 憂いひつゝ伶人の樂せる

名人もいへる 磬のうらつらと撃つるや

百の鳥獸もまじりておほしきや

帝曰く龍朕 聖謬説殄行震驚朕師命汝作納言

夙夜出納朕命惟允 龍の官と任じし官の

亮天功三載考績三考黜陟幽明庶

績咸熙分北三苗 以上二十二人の官と命と

帝曰く咨汝二十有二人欽哉惟時

舜生まで三十徵庸せしれ三十位

に在五十載以て陟方して乃ち死す

大禹謨 禹の夏の代の元祖あり

曰若し古の大禹と誓ひて乃ち

大禹謨 禹の夏の代の元祖あり

曰若し古の大禹と誓ひて乃ち

大禹謨 禹の夏の代の元祖あり

曰若し古の大禹と誓ひて乃ち

大禹謨 禹の夏の代の元祖あり

命四海于敷祗んて帝于承

曰后克厥后

臣と艱ト臣克厥

徳と敏

帝の曰く俞允

茲の若嘉言伏攸

罔野は遺賢無萬

邦咸寧

衆于誓ぐ已と舎

て人又從ひ告ること

無と虐せ不困窮

承于帝

大禹の徳を以て四海の君を敷く

曰后克艱厥后

臣が艱難を克くして臣が政を治す

又黎民敏徳

多の民が後を慕ふ

帝曰俞允

若し嘉言を伏して

罔野無遺賢

萬の賢人を遺さず

邦咸寧

諸國が安んず

衆于誓ぐ已

衆が誓ひを以て

舎て人又從ひ

告ること無し

無と虐せ不困窮

虐をせず困窮せず

と廢不惟帝時克

益曰都帝の徳

廣運乃ち聖乃

ち神乃ち武乃

ち文皇天眷命

て奄く四海と有

つて天下の君と為

時克

明君の已むるを以て衆の心を安んず

益曰都帝の徳

徳の廣く運ぶ

廣運乃ち聖乃

聖の徳を以て

聖乃ち神乃ち武乃

神の徳を以て

聖乃ち文皇天眷命

文皇の命を以て

て奄く四海と有

天下の君と為

禹曰惠迪吉從逆凶惟影響

禹の徳を以て吉となり逆は凶なり

益曰吁戒哉虞無
傲戒一法度也失
罔逸于遊
罔樂于淫

賢人任して貳るる
勿邪と去て疑
ふと勿疑
成と勿百志惟
熙

道違て以て百姓
之譽と干ると罔百
姓に拂て以て已之
欲と從と罔怠と無
荒と無四夷來王と

禹の曰く於帝念
哉徳の惟政と善
す政と民と養
ふと在

水火金木土穀惟
修徳と正し用
利し生と厚
惟和と

九功惟叙で九叙
惟歌之と戒む

經典餘師

書經卷之一

十五

益曰吁戒哉。傲戒無虞。罔失法度。罔遊于逸。罔淫于樂。

○任賢勿貳。去邪勿疑。疑謀

勿成。百志惟熙。

罔違道以于百姓之譽。罔拂百姓以

從已之欲。無怠無荒。四夷來王。

禹の曰く於帝念哉。徳の惟政と善す。政と民と養ふと在。水火金木土穀惟修。徳と正し用利し生と厚。惟和と。

曰放帝念哉。徳の惟善。政政在養民。

○水火

金木土穀惟修。正徳利用。厚生惟和。

九功惟叙。九叙惟歌。之と戒む。

○九功惟

二休と用て一之と董に威と用て一之と勸む一之九歌と以て一之壞ること勿ら俾

帝の曰く俞地平天成六府三事允又治萬世永頼ん時乃の功

帝の曰く格汝禹朕帝位宅三十三載耆期にして勤于倦汝惟怠不朕師と

叙九叙惟歌戒之用休董之用威勸之以九歌俾勿壞

帝曰俞地平天成六府三事允又治萬世永頼ん時乃の功

帝曰格汝禹朕帝位宅三十三載耆期にして勤于倦汝惟怠不朕師と

帝曰格汝禹朕帝位宅三十三載耆期にして勤于倦汝惟怠不朕師と

總禹曰朕徳克

すゝと罔民依不臯陶邁て徳と種徳乃ち降黎民之に懐

帝念哉茲と念と茲在茲を釋て茲在茲と名言すゝに茲在允と茲に出るも茲在惟帝功と念

總朕師禹曰朕徳罔克民不依臯

陶邁種徳徳乃降黎民懐之

帝念哉念茲在茲釋茲

在茲名言茲在茲允出茲在茲惟帝

念功

帝の曰く臯陶
惟茲臣度予正
之于或之罔汝
士と作る五刑于
明を以て以て五
教を弼予と治ま
于期刑と刑無
于期一民中に協
時乃の功懋哉

○帝曰。臯陶惟茲臣度。罔或于予正汝作士。明于五刑以弼五教。期于予治刑期于無刑。民協于中。時乃功懋哉。

○帝の御徳は、臯陶の臣に、或る正事をして、汝をして士とせしめ、五刑を以て五教を弼むるを期す。民は協于中にして、功懋むるを期す。

臯陶は、臣の功懋むるを期す。帝の御徳は、臯陶の臣に、或る正事をして、汝をして士とせしめ、五刑を以て五教を弼むるを期す。民は協于中にして、功懋むるを期す。

臯陶曰帝徳愆
罔下は臨は簡と
以て一衆と御す
罰小寛と以て
賞の嗣及さ弗
賞の世于延過ま
ちと宥る大と
無故と刑するも
小と無罪の疑は
しき惟輕く功
の疑しき惟重
其辜は不
殺と人與の寧不
經と失せん好生
之徳民心于洽
茲と用て有司と

臯陶曰。帝徳愆。罔下。以簡御衆。以寛罰弗及嗣。賞延于世。宥過無大。刑故無小。罪疑惟輕。功疑惟重。與其殺不辜。寧失不經。好生之徳。洽于民。心茲用不犯于有司。

臯陶は、帝の徳が愆を以て、罔下に臨み、簡を以て衆を御す。罰は小を以て、賞は及ばず。賞は世に延び、過は宥むるに大を以て。無罪の疑は小を以て、功の疑は重きを以て。罪の疑は輕きを以て、功の疑は重きを以て。殺すに不辜を失せしむるに、寧ろ經を失せしむるに好む。好生の徳は、民心を洽くす。心は、茲に用て、有司に犯さず。

犯さ不

帝曰く予を俾て
欲を從ぐ以て
治め四方の風動
するは惟乃の休

帝曰く來れ禹降
水予を傲む允と
成し功と成惟汝
の賢克邦于勤め
克家于儉し自ら

滿假せ不惟汝の
賢

汝惟矜ら不天下
汝與能と爭らふ
莫汝惟伐不天下
汝與功と爭らふ
莫予乃の徳と懋
たりと乃の不
績と嘉す

天之曆數汝の躬
一在汝終元后
道心惟微惟精惟
一允厥中と

經典餘而

功ありと疑りしきを動さうして賞ありと
右乃と功すくたるは賞なし過りしとゆ
不幸の殺より勝るものありたり全く
民の生やうし好ませり御徳の民乃心し治や
よとて用よとていふ有司とらむと罪と
犯りぬる

方風動惟乃之休

帝の治より民も休む

帝曰來禹降
水予を傲む允と
成し功と成惟汝
の賢克邦于勤め
克家于儉し自ら

滿假せ不惟汝の
賢

汝惟矜ら不天下
汝與能と爭らふ
莫汝惟伐不天下
汝與功と爭らふ
莫予乃の徳と懋
たりと乃の不
績と嘉す

天之曆數在汝躬
汝終元后
道心惟微惟精惟
一允厥中と

經典餘而

執

無稽之言聽勿
弗詢之謀庸勿

元后とちてく人欲心さくやく絶さめ
道よりあふく微やと惟一とく精
中と執
○無稽之言勿聽弗詢之謀
無稽の言を聴く勿れ
弗詢の謀を庸る勿れ
○無稽の言を聴く勿れ
弗詢の謀を庸る勿れ

勿庸

○無稽之言勿聽弗詢之謀
無稽の言を聴く勿れ
弗詢の謀を庸る勿れ

愛可君非
或可民非
衆元后非
何と戴人后
衆非與邦
守罔欽哉

○可愛非君可畏非民衆非元后何
戴后非衆罔與守邦欽哉
可愛や君に非ざる
可畏や民に非ざる
衆元后に非ざる
何と戴人后
衆非與邦
守罔欽哉

乃の有位と慎
其願可敬修
四海困窮天祿永

○慎乃有位
敬修其可願四海困窮天祿永
乃の有位を慎む
其願を敬修す
四海困窮天祿永

終惟口好
出戎與朕
言再いせ不

○日出好興我朕言不再
帝禹の好む乃
の有位を慎む
敬修す
一夜可願
一善も不善も
善心善事あり
政事は善あり
政制は私心あり
四海の困窮あり
后は天の
之を祿位と永く終絶
警むべし
天下の好む治あり
我兵も惟口より
出り
朕再びいせ
汝を天位につくべし

禹曰功臣と救
惟吉之從

○禹曰救下功臣惟吉之從
舜帝曰
禹曰功臣と救
惟吉之從

帝曰禹官占惟先
志と蔽め昆
先命す朕
志と先定まる
詢謀會同鬼神

○帝曰禹官占惟先蔽志昆命元龜
朕志先定詢謀會同鬼神其依龜筮
協從下不習吉
帝の官占と何事も
官占と何事も
官占と何事も

帝曰禹官占惟先
志と蔽め昆
先命す朕
志と先定まる
詢謀會同鬼神

○帝曰禹官占惟先蔽志昆命元龜
朕志先定詢謀會同鬼神其依龜筮
協從下不習吉
帝の官占と何事も
官占と何事も
官占と何事も

其依龜筮協從
吉と習ふ

禹拜稽首固辭す
帝の曰母惟汝諧
の

正月朔且命と神
宗于受百官と率
ひ帝之初の君

帝の曰咨禹惟時
有苗率か弗汝
徂て征せよ

禹乃ち群后と會

蔽めその昆吉凶と龜卜りの朕が志先定まらるり
そのく衆人入り詢謀とく命く同意たり鬼神も
依順るの龜筮とく協從まらるる也
○禹拜稽
首固辭帝曰母惟汝諧
稽首と地と
固辭とた

○禹拜稽
首固辭帝曰母惟汝諧
再三辭退とる
○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初
○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初
○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初

○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初
○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初
○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初

○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初
○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初
○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初

○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初
○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初
○正月朔
且受命于神宗率百官若帝之初

師于誓て曰濟
濟有衆咸朕
命と聽蠢々茲
有苗昏迷不恭侮
慢自ら賢と道
反さき徳と敗君
子野小人在位
民棄て保
て不天之日咎と
降す肆予爾衆
士と以て辭と奉
罪と伐爾尚
乃の心力と一
其克勳有

師于誓て曰濟

于師曰濟濟有衆咸聽朕命蠢々茲有

苗昏迷不恭侮慢自賢及道敗徳君

子在野小人在位民棄不保天降之

咎肆予以爾衆士奉辭伐罪爾尚一

乃心力其克有勳

の軍法乃誓とて曰く濟濟有衆
つとも朕命令し示と條目とを
蠢々有苗乃の徳と敗君
かり自の身と賢とを人
徳と敗る民百姓を棄て保
野に在る小人を位に立て
外口とまはるる天子の命と奉
つ天子の命と奉その罪と辭とを
征伐とて

三旬苗民命之逆

禹乃乃之克勤とてつとつと

三旬苗民

逆命 三旬の日に苗民乃民とて三旬の日に替てふ

益禹于贊て曰く

益贊于禹曰惟德動天無遠弗届

惟徳天と動す遠

満招損謙受益時乃天道

満損と招き謙益

帝初

帝初歴山于

于歴山往于田日號泣于昊天于父

天于父母于號泣

母負罪引慝祗載見瞽瞍夔夔齊慄

載と祗で瞽瞍

瞽亦允若至誠感神矧兹有苗

瞽も亦允若す至

又天

誠神と感す矧

道自然と徳乃と有と説ふと左の

禹昌言と拜して

禹拜昌言曰俞班師振旅

日俞師と班

帝乃誕敷文徳舞于羽于兩階七旬

と振め帝乃ら誕

有苗格

文徳と敷て于

有苗格

羽兩階于舞す七

有苗格

旬して有苗格

有苗格

經典餘師

有苗格

皋陶曰都亦行
九德有亦
其人言有德
乃言曰曰采
采載

禹曰何皋陶曰
寬而栗柔而
立愿而恭亂
而敬擾而毅直
而溫簡而廉
剛而塞彊而
義彰厥有常
吉哉

人進放土地遷りおよいびこりなり
言と巧と色と令飾るみめら孔壬たりとと畏
うまうま
たらと

○皋陶曰都亦行有九德

亦言其人有德乃言曰載采采

凡を人乃行は九の德行ありその人の自徳
一々意にふ品をかどへ彼采といふ此采い
と察と時とこの載行の品

○禹曰何

皋陶曰寬而栗柔而立愿而恭亂而

敬擾而毅直而溫簡而廉剛而塞彊

而義彰厥有常吉哉

皋陶曰何禹曰何
如何向の因
寛と柔と栗と柔と立と愿と恭と亂と
敬と擾と毅と直と温と簡と廉と剛と塞と彊と

日三徳と宜風
夜浚明家と有つ

○日宣三徳風夜浚明有家日

日嚴なり

六德と祗敬一采
と亮らよ一邦と
有つ翁受敷施
九德咸事とい俊
又官又在百僚師
師百工惟時五
辰于撫いて度績
其疾

嚴

右九つの徳の内一として明かす三の徳と宜まめ風夜
それと以て人と浚め言行と明白せば一家の内む

○祗敬六徳亮采有

邦翁受敷施九徳咸事俊又在官百

僚師師百工惟時撫于五辰度績其

疑
日用の事と亮らよ一邦と有乃君ととさうさ此

三徳六徳と翁一受多天下へ敷施こ一以て官又つ

徳と事一行之徳乃俊又人々と以て官又つ

け百僚人たふい一師々とさうさやうさけ百

工とさうさ時の宜と一師々とさうさやうさけ百
王とさうさ農業の時耕の田とらとまらかへさうさ
りり一以上乃今条ことごとくどめ入とさうさ天
下の要務度績あり何ととと疑
○無教

無教

教無と競々業
一日二日萬幾幾

逸欲有邦競競業業一日二日萬幾

官と曠する無れ
天工人其之代

無曠度官天工人其代之
酒食財宝の
欲りふけ

ふ

逸とむさうさ人々と有さ教とさうさ
そ天下の政とさうさ一日二日乃内り數万とさうさ
どの幾いさうさ一実と競々業とさうさ
天道乃御一たり代ふ人物とさうさ徳と

ふ人と度くの官人と一徳とさうさ世り益とさ
りく役人さうさ上り立らよい官とさうさ

○天叙有典勅我五典

五惇哉
天然志せん人々と有典と五乃叙あり
五乃典とい父子君臣夫婦長幼朋友の道

○天秩有

禮自我五禮有庸哉
天然一せん五の礼乃
秩一きりて庸と

寅と同一恭と
協和衷たる哉

天有徳は命す五
服五章たる哉

天有罪と討す五
刑五用たる哉

政事懋哉懋哉

天の聰明我民

この道より依る國家の作法は五と上にも述る
公侯伯子男と國の守り御位に在るは毎法の者
盜賊亦乃なんざあつて死民安堵をりたるを
五礼を吉凶賓軍嘉とつて前より出たり

○同寅協恭和衷哉

以上乃五典五礼も
同寅協恭和衷の寅

○天命有

○天討有罪

徳五服五章哉

天子より仁徳を君とくは
守たりも衣服冠弁五

○天討有罪

天子の位はつても章うつくは
も実も威なりて猛りては

五刑五用哉

五刑の罪はつて五刑
の刑罪と制して用は

○政事懋哉懋哉

天下の政
事は

○天聰明自我

天子の意をうけて施行く
とせむは懋へし

自聰明天の明畏
自我民自我明威上

下于達す敬さん
哉有土

民聰明天明畏自我民明威達于上

下敬哉有土

凡天道の御心は万民の守りて示
るは萬とつてと上上の善悪とす

○人君の行は天常よりかんがへる天の明
威なりとげりて賞罰の畏るることこの

○人君の身は元過りて下民よりして上天に達す
と土と有る乃君と畏敬する戒むる

○臯陶曰朕言惠可底行禹曰兪乃

言底可績臯陶曰予未有知思曰贊

贊襄哉

臯陶又曰されは今朕のべひつる言は
民と恵とるは政事は底行

○臯陶又曰予未有知思曰贊
と禹の言はれは兪とありて乃言はるる

臯陶曰朕言惠
可底行人可禹

曰兪乃乃言底
可績臯陶曰

予未有知思曰
贊

思哉

思慮とはくさひ紛がくを君に力と賛々奉
まつりて受事とばしつが襄るゝとかり

益稷

益稷

帝の曰來禹汝も亦昌言せよ禹拜して曰都帝予何とる言予日汝致と思

帝曰來禹汝も亦昌言せよ禹拜して曰都帝予何とる言予日汝致と思

臯陶曰吁如何禹曰洪水天は滔々山と懐と陵

○臯陶曰吁如何禹曰洪水滔天浩浩懷山襄陵下民昏墊

予九川と決き四海と距吠澮と澹へ川と距

予決九川距四海澹澮距川

稷暨慶の艱食は鮮食と播奏し懋て有無と遷化居

○暨稷播奏慶艱食

寸悉民乃ら粒と萬邦又まりと作臯陶曰兪汝の昌言と師とす

作臯陶曰兪師汝昌言

言と師とす

乃二人の庶民

禹曰都帝乃の在位と慎り帝の曰
命休と用てと

禹曰都帝乃の在位と慎り帝の曰
命休と用てと
禹又言と奉たりて曰ん天子位は居る
動不應後志以昭受上帝天其申命
用休
君乃徳と弼と直ちなり

帝曰吁臣哉鄰哉
哉臣哉禹曰

帝曰吁臣哉鄰哉
哉臣哉禹曰
帝曰
君身と動して天下の善悪を應ずる

帝曰臣朕が股肱
耳目作予有民と
汝翼

帝曰臣朕が股肱
耳目作予有民と
汝翼
予欲左右有民汝翼
帝曰臣作朕股肱耳目
予欲宣力四方汝爲

予古人之象と觀
日月星辰山龍華
蟲會と作宗彝
藻火粉米黼黻
紉五采と以て彰
服と作んと欲す
汝明くよせよ

宣つくし中國の民とよく治めしうと四方の夷
方のとくをいしむるもめぐむおよびさんと欲たり汝
とんと爲るま
○予欲觀古人之象日
月星辰山龍華蟲作會宗彝藻火粉

米黼黻紉以五采彰施于五色作
服汝明
舜帝いふくかんむりを作らんとこと
礼を君臣父子貴賤高下のとくありと蒙りてその
象よりとくありし衣服乃りよりと色とより古人天
象よりとくありし衣服乃りよりと色とより古人天
象よりとくありし衣服乃りよりと色とより古人天

酒尊たり藻は水のうさ州なり火をりん
黻はくさうなり粉米うるこがさなり
黻はくさうなり粉米うるこがさなり
黻はくさうなり粉米うるこがさなり

の色とありし衣服格式とありし
乃りよりとくありし衣服乃りよりと色とより古人天
象よりとくありし衣服乃りよりと色とより古人天

予六律五聲八音
と聞て治忽と在
し以て五言と出
納とんと欲と汝
聽

○予欲聞六律五
聲八音在治忽以出納五言汝聽

予六律五聲八音
と聞て治忽と在
し以て五言と出
納とんと欲と汝
聽

予違汝弼汝面從
退ときて後言有
無欽めや四鄰

○予違汝弼汝無面從退
有後言欽四鄰

予違汝弼汝無面從退
有後言欽四鄰

庶頑諂說若時
在不侯以之
明之捷以
識之記書以
欲其哉工納言
以時而之
賜

庶頑諂說若不在時侯以明之捷以
記之書用識哉欲並生哉工以納言
時而賜之
庶頑諂說若不在時侯以明之捷以
記之書用識哉欲並生哉工以納言
時而賜之
庶頑諂說若不在時侯以明之捷以
記之書用識哉欲並生哉工以納言
時而賜之

格則承之庸之
否則威之

格則承之庸之否則威之
右三の教り
格まばその人
庸ひ承ひ
威と志め

禹の曰く俞哉帝
天之下と光く海
隅蒼生于至
萬邦の黎獻共
惟帝臣之惟帝時

禹の曰く俞哉帝天之下と光く海
隅蒼生于至萬邦の黎獻共惟帝臣之惟帝時
○禹の仁徳天の下を四海乃隅ぐ光く

敷納言と以て
明庶功と以て
車服庸と以て
誰敢て讓不
敬應せし不

敷納言と以て明庶功と以て車服庸と以て
誰敢て讓不敬應せし不
敷納言と以て明庶功と以て車服庸と以て
誰敢て讓不敬應せし不

帝時のむくあ
す敷同よきて日に
功周奏

帝不時敷同日
天子の臣下と用る時不敷同よきて功を奏問とべし事と
○無若丹朱傲惟

丹朱が傲惟慢遊
惟好傲虐是と作
晝夜と周額額と

慢遊惟好傲虐是作周晝夜額額周
○予創若

行家于朋淫
用て厥世と殄が
若らうと無

水行舟朋淫于家用殄厥世
丹朱の傲虐は作る晝夜のまらふもよく額々る
○予創若

創く塗山于娶辛
壬癸甲啓呱呱而
泣予子と弗惟荒
と土功と度

時娶于塗山辛壬癸甲啓呱呱而泣
禹又のり身の時あり

予弗子惟荒度土功
丹朱が身の若時あり

五服と弱成て五
千于至州と十有
二師外四海と薄

服至于五千州十有二師外薄四海
○弼成五

咸五長と建各迪
て功有苗頑うて
工に即弗帝其念

咸建五長各迪有功苗頑弗即工帝
○弼成五

帝曰朕之德也迪時乃功惟叙臯陶方祗厥叙施之惟明

夔曰鳴球與擊琴瑟以詠祖考來格虞實位在郡后德讓

下管鼓合止祝故笙鏞以間鳥獸踏踏簫韶九成鳳凰來儀夔曰於予石擊石拊百獸率舞庶尹允諧

帝曰唯苗之國也此也○帝曰

迪朕德時乃功惟叙臯陶方祗厥叙

方施象刑惟明

德之叙也祗之象刑也○夔曰擊鳴球搏

拊琴瑟以詠祖考來格虞實在位羣

后德讓

德之讓也

鳴球之鳴也與擊琴瑟之聲也

祖考之來格也

虞實之位在也

鳥獸踏踏

簫韶九成

鳳凰來儀

夔曰於予

石擊石拊

百獸率舞

庶尹允諧

經典餘節

帝庸作歌帝庸作歌と作て曰曰く天之命天の命と勅勅多多惟時惟時惟幾惟幾乃乃歌歌曰曰股肱股肱喜喜哉哉元首元首起起哉哉百工百工熙熙哉哉

臯陶拜手稽首臯陶拜手稽首曰曰賜言賜言一一曰曰念念之之哉哉率率事事與與乃乃之之憲憲慎慎欽欽哉哉屢屢省省乃乃之之成成也也省省欽欽

○帝庸作歌曰勅天之命みよこの此を

惟時惟幾乃歌曰股肱喜哉元首起みよこの此を

哉百工熙哉みよこの此を

臯陶拜手稽首賜言曰念之哉率事與乃之憲慎欽哉屢省乃成みよこの此を

欽哉みよこの此を

乃廢載歌曰元首明哉みよこの此を

股肱良哉庶事康哉みよこの此を

又歌曰元首業朕哉股肱懌哉萬事墮哉みよこの此を

欽哉

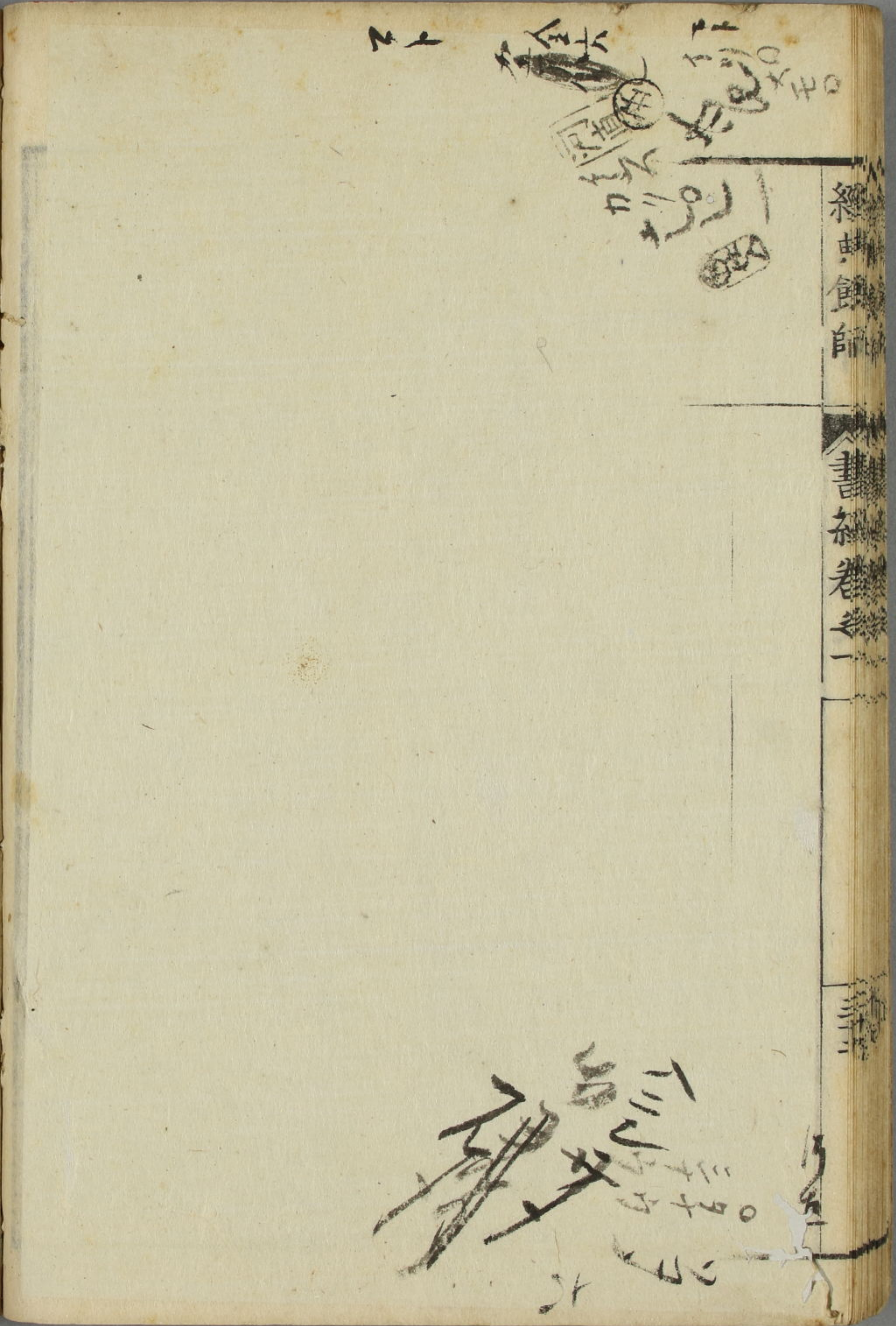
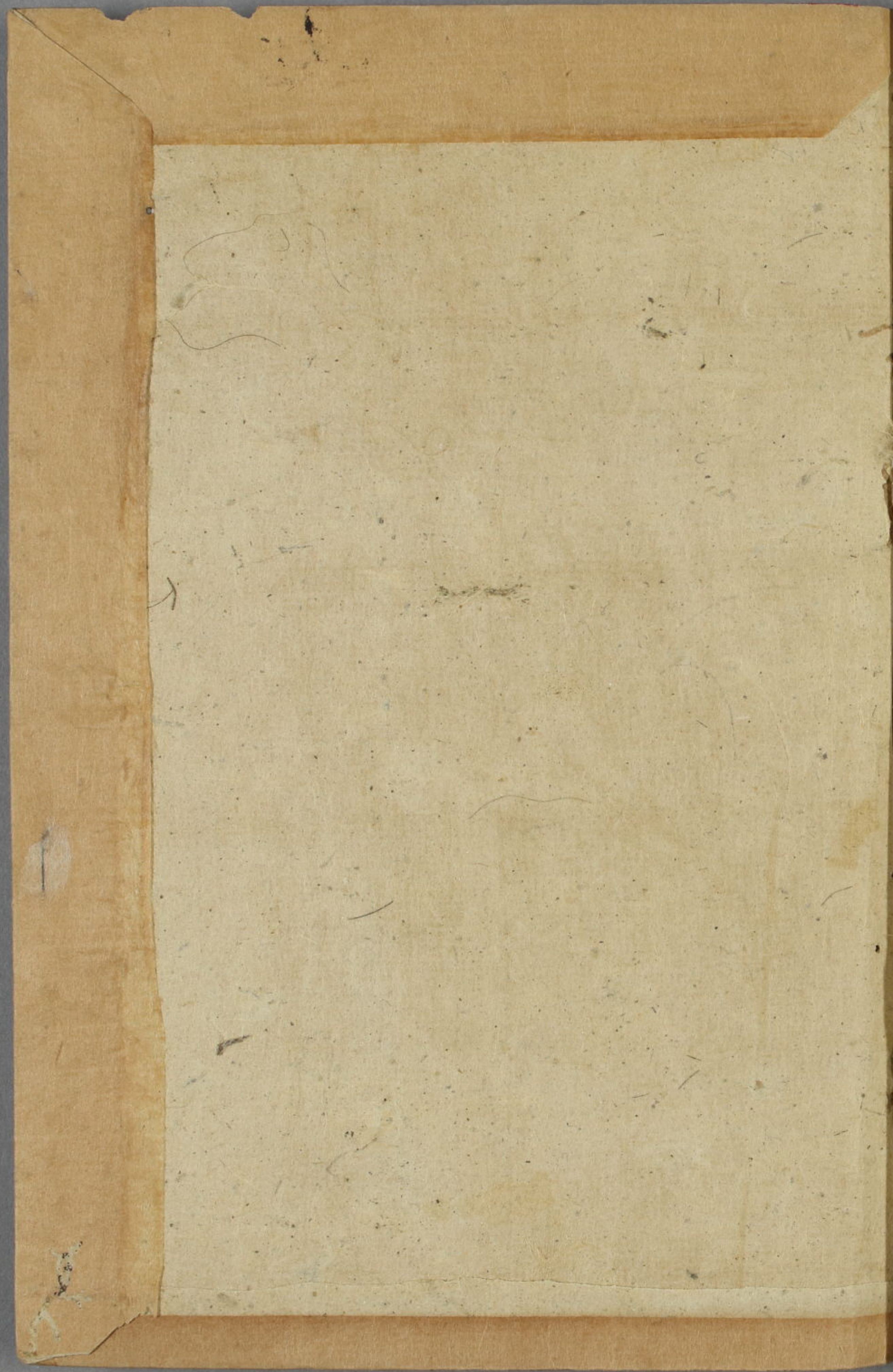
乃廢載歌曰

股肱良哉

又歌曰元首業朕

帝拜曰命往欽哉

書經卷之一終



Handwritten Japanese text and stamps in the top right corner of the right page. The text includes characters such as 金 (gold) and 十 (ten), along with a circular stamp containing the number 140.

經典
餘師

書
卷之一

Handwritten Japanese text and stamps in the bottom right corner of the right page. The text includes characters such as 三 (three) and 十 (ten), along with a circular stamp containing the number 140.

